

## 各種資料整理

### 作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館蔵品資料（館蔵品番号順）
- (3) 出品作品資料（各企画展ごと）
- (4) 館蔵品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

### 館蔵品などの写真・スライド作成整理

#### (1) 館蔵品

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による写真撮影をおこなっている。主に4×5インチのカラーポジを写真原板として受入番号順にホルダーに入れ、合わせて35mmスライドも撮影、それぞれキャビネットに整理収納している。

なお、これまでの原板には撮影後10年が経過し、色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。また、パソコンを用いた講座等が増えてきていることから、館蔵品の35mmスライドについては、デジタル画像作成へと徐々に移行してきている。

#### (2) その他

館蔵品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

### 館蔵品写真のフォトリソ化

館蔵品の画像を、コンピュータで利用できるように、平成7年度から館蔵品写真のフォトリソ化を順次進めている。フォトリソに収められた館蔵品画像は、インターネットのホーム・ページや研究会などで実用が進んでいる。

### 美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料のうち、新聞切り抜きについては、ボランティアの協力を得て、その日常活動のなかで行なわれている。さらに、その新聞切り抜きの整理や、個展案内葉書などの整理には、ボランティア有志による、資料整理グループ「グループD」があ

たっており、着実に整理が進んでいる。

### 展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各展覧会ごとに整理が行なわれ、キャビネットに収納されている。

### コンピュータによる各種データ管理

館蔵品データや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータ・ベースソフト「桐」を使用し、以前より進められている。図書データの遡及入力作業には、ボランティア有志によりコンピュータ入力チーム（「桐の会」）があたり、新たに発生するデータについては、日常業務の延長上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

#### (1) 収蔵品

収蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は、フォトリソ化したものを中心に蓄積されており、主な作品については揃っている。未作成の作品について順次整備を進める必要がある。

履歴データは、5種（伝来・修復歴・展覧会出品歴・収蔵品展展示歴・文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等、諸業務と連動させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施、公開用フォーマットの検討を行った。今後の課題として、データ公開を具体的に進める必要がある。

#### (2) 図書

図書は基本的な手作業によって収集・受入・整理作業が行なわれているが、平成4年度からはそれと並行し、順次データのコンピュータ化を進めている。現在、遡及入力を続けている。

なお新規受入図書については、前年度以来、図書担当職員によるデジタル入力での受入作業を進め、図書カードや図書原簿なども連動しプリントアウト、順調に推移している。

遡及入力終了後の課題として、図書データ公開計画を具体的に検討していく必要がある。